



「人権週間です」

校長 高嶋 聡

とても肌寒い日もありますが、校庭には元気いっぱい体を動かす子どもたちの姿が見られます。個人面談が始まりました。お忙しい中の御協力ありがとうございます。短い時間ではありますが、お子様の学校や家庭での姿を重ね合わせることで、一人ひとりへの理解を少しでも深め、より良い成長に結びつけることができればと思います。



さて、右の写真は、先週正門近くに一輪だけ咲いていたツツジです。通常ツツジは、新緑が美しく輝く4月～5月にきれいな花を咲かせますが、11月下旬になぜか一輪だけ真っ白な花を咲かせていました。このような咲き方を「狂い咲き」というようで、日長その他の条件が乱されると、その種特有の季節とは異なった時に花を咲かせることがあるそうです。でも、なぜ、一輪だけが...と考えてしまいます。「狂い」と聞くと何か良くないことのように感じてしまいますが、花の少ないこの時期にひっそりと咲いているツツジにとっても心が癒されました。

11月の最後の朝会で子どもたちに人権についての話をしました。本校では、12月1日～7日を入権週間として設定しています。人権週間には、道徳やその他の学習の中で各学年の発達段階に応じて身の回りにある人権的な問題について考える授業を行います。「ふわふわ言葉」「男女平等」「外国籍・多文化共生」「障害者福祉」「ネットマナー」「性的マイノリティ」など、6年間を通して様々な人権にかかわる学習ができるよう計画的に行っています。子どもたち、そして我々教職員も一人ひとりの良さを認め合い、安心して学校生活をおくることができるよう啓発するとともに、身近にある様々な人権に関わる問題を自分の問題とし受け止めていくことの大切さを再確認する機会となればと思います。

朝会では、学校で起こりやすい人権侵害の一つである「いじめ」について話をしました。いじめは他の人の安心や幸せに過ごす権利をうばう行為で、無くしていかなければならないことだと伝え、どのような時にいじめや人を傷つけることをしてしまいやすいかなどを話しました。人は、何か嫌なことがある時、自分が正しいと思い込んでいる時、自分の思い通りにしたい時、自分だと気付かれない時などに人を傷つけやすくなってしまわないかと思えます。そのような時は、その場の感情、感覚だけで行動せず、一度立ち止まって自分を見つめ、自分がしようとしていることについて考えることを大切にしてほしいと伝えました。また、人によって、考えや大切なことは違うということを理解し、違いを認め合うこともいじめや差別を減らす上で大切であることを話しました。いじめだけではありませんが、「された人、言われた人」は「した人、言った人」の何倍も心に残ることが多いということ、自分で直すことができないことへの悪口は絶対にいけないことなども話しました。伝えたいことはたくさんありますが、12月の人権週間では全校で「ちょっと立ち止まって相手の立場になって気持ちを考える。」ことをみんなで意識していきましようかとまとめました。日々の生活の中でつい人を傷つけてしまうことは誰しもあると思えます。そんな時、自分を振り返り、必要な時にはきちんと謝り、その後に生かすことができれば良いと思えます。また、されてしまった場合も、絶対に許せないこともあるとは思いますが、そうでない場合は謝罪を受け入れ、再び共に関係を築きながら過ごしていこうとする気持ちも大切なのではないのでしょうか。

これから様々な人との関わりの中で成長していく子どもたち。自分のそして周りの人の安心や幸せを大切にできるようにご家庭と協力しながら育てていきたいと思えます。